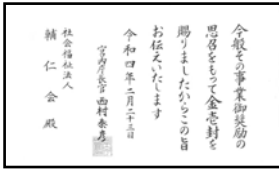


# 「御下賜金」と「言語化」 理事長 大浦 純平



この2年半に渡るコロナ禍の下で、輔仁会の各園においても休園に追い込まれたり、クラス閉鎖があったりと保護者の皆様にご迷惑をお掛けする事態が続いています。一刻も早い収束が待ち望まれます。



★ さて、この度、当法人は天皇陛下より社会福祉事業御奨励の思召しをもって、民間福祉事業に係る**事業成績優秀な団体**であるとして**金一封**を下賜されました。これは私の母、大浦仁子による1965年の創立以来、57年間保育事業を支えてもらった歴代の園長先生方を始め、多くの職員へのご褒美であり、また、温かく見守りご協力を頂いた保護者の皆様のお蔭だろと思っています。

★ 次に、私共は保育理念として、「子どもたちに最善の喜びと幸せを 子育てに夢と力を」という言葉を掲げ、保育の拠りどころとしています。今回、その道のプロに依頼し、日々の保育行動を職員から聞き取りをもらい、その一つ一つが言語化されました。一部をご紹介します、「その子の気持ちを、一緒に探す。」「気持ちを汲み取り、想いを返す。」「その一瞬を、見逃さない。その一言を、聞き漏らさない。」「全員を感じる。一人に向き合う。」「好奇心で、子どもに負けない。」「一人一人の『やってみよう』を大切に。」等々、思いよめ素敵な表現がなされたことに驚きました。連続と引き継いできた保育が言語化され自分たちが現場で実践している保育の一つ一つが言葉により裏打ちをされたことに保育者たちは大いに感動を覚えました。

★ 今回の『ご奨励』を機に、そして、『言語化』された実践の一つ一つを心に刻みながら、「最善の喜び」を提供できるよう、保育計画を更に深化させなければと思います。

結びとして、近ごろ保育の世界も近代化の波が押し寄せつつあり、経営の効率化や、選ばれる保育園になるための方策をと、かまびすくなっています。私共もその対応を考えなければならぬ時期なのかとは思いますが、古い頭では上手く対応出来るのか甚だ自信がありません。それでも、引退前に、後ひと踏ん張りしてみようと思っています。

皆様の応援を宜しくお願い致します。



## さわらび保育園年報 第12号

2022年(令和4年)9月1日 発行

発行/編集

社会福祉法人 輔仁会  
さわらび保育園

〒813-0031福岡市東区八田4-6-5

<http://www.hojinkai.ed.jp/sawarabi/>



未だコロナの収束が見えず、元の当り前と思っていた日常は果たして戻ってくるのかと心配です。三園で、陽性の一報と同時に急なお迎えや登園自粛をお願いする状況があり、お困りであろうにも関わらず直ぐに対応頂き保護者の皆様には感謝いたします。職員も様々な感染防止対策をしながら、子どもたちにも例年と変わらぬ保育を、幼児期に大切な経験を、と苦勞の日々を重ねていること、有難い限りです。行事においても出来たこと出来な

### コロナ禍と地球と

統括次長 大浦まゆみ  
(元 新宮つばき保育園 園長)

かつたところがあり、昨年は青組の音楽祭は各園毎の入替で開催しましたが、劇遊びの発表会は三園とも中止となり残念でした。しかし、園での保育を間近で見得る機会が僅かでしたが、職員皆子どもたちに向かい合いの愛情を注ぎ関わってききました。この子たちの将来が幸せであるようにと願



いながら、もひとつ心配なことがあります。地球温暖化、異常気象、自然災害、絶滅危惧等。人間が地球から享受しすぎた結果でしょうか。この子たちが大きくなった時地球はどうなるのか、それでいいのか。子どもたちの未来の幸せのために、大人が真剣に考えてできることを皆が行動しなければ、恵み豊かな地球を蘇らせなければ、と強く思うこの頃です。

昨年度に引き続き、さわらび保育園父母の会会長を務めさせていただきます三根一晃です。

「来年こそは、青組さんのさわらび太鼓が響き渡る夏が来ますように」と締めくくった一年前のこちらの挨拶文。その願いは、今年も叶いませんでした。

ご承知の通り、今年度も新型コロナウイルスの影響により園の取り組み、父母の会の活動も縮小や見送りを余儀なくされています。開催を計画していた7月の「フェスタ」は、急激な感染拡大により、やむなく中止を決定いたしました。昨年と全く同じ事態となり、大変残念な気持ちでいっぱいです。この「フェスタ」は、秋に改めて企画し、開催したいと考えています。

父母の会はもう2年以上、ほとんど活動できていません。いつになれば制限なく活動できるのか、もはやわかりません。そして元に戻ったときにはコロナ前の活動を知っている保護者が卒園していきほばいないような状況になってい

るかもしれません。父母の会で行ってきた行事運営の経験が引き継がれないままどうなるのか、と悲観的な気持ちにもなっていますが、今できることを、そのときにできることを前向きに考えてやっていくしかないと思います。父母の会の目的は、子どもたちが笑顔で楽しめる時間をつくることと保護者の交流機会をつくることです。その目的を大事にできれば、知恵を出し合いながら活動を継続できるのではないのでしょうか。

先生方もこのような状況の中、子どもたちのためにと、あきらめず検討・調整しながら対応して下さっており、本当に感謝いたします。

先行きが不透明な状況ではありますが、子どもたちの元気な姿にこちらも元気をもらいながら、皆様と一緒に乗り越えていけたらと思います。

今年こそ、「来年こそは、青組さんのさわらび太鼓が響き渡る夏が来ますように」

## 『人と人との繋がりの中で』

園長 三笠 良子



7月に入り、新型コロナウイルス感染症の感染者数が増大し家庭内感染から幼い子どもへの感染も増えていきます。まだまだ、安心はできません。保護者の方々にもご協力とご理解をいただきながら、感染防止に努めています。園内で陽性者が出た場合、濃厚接触を疑われる子どものご家庭に登園自粛をお願いしなければなりません。大変な中で「今はそれがなっても仕方ないことだから」とご協力をいただき感謝しています。大きくクラスターを起こすことなく過ごしているのは、ご家庭でも感染防止に努めてあることも大切な要因であると思います。引き続きよろしくお願いします。

先日子ども同士のトラブルを目にする機会がありました。双方がしっかりと自分のことを主張して譲りません。お互いがお互いを理解することは幼い子どもたちにはなかなか難しいものです。おもちゃの取り合い、場所の取り合いなどは日常茶飯事。そのたびに保育士は近くで声をかけ、時にはお互いの気持ちを代弁し、4・5歳の子どもであれば解決の糸口を子どもと一緒に考えます。人は人の中で生き成長していきます。保育園時代に回りの友達や保育士などとの繋がりをもち、そのことで安心して幸せな気持ちで過ごしていくてくれたらと思います。人との関係だけでなく、保育園内の環境や、私たちの関わり方を今一度見直し、「保育の質」を高めようと動画の配信を通じて、外部の講師から学ぶことも積極的にとりいれて、全職員で研修に取り組みんでいます。一人一人に寄り添う保育を考えながら今後も研鑽を続けていきたいと思えます。

園内の様子を公開しています。

ホームページ



Instagram



## たからもの展 ～子どもの作品はたからもの～

毎年秋に開催している「たからもの展」(制作展)。子どもたちの日ごりの制作を保護者の方に見て頂いています。各クラス、様々な技法や材料を使ったり、展示の仕方にも工夫を凝らしています。年少組では展示の中で、日頃から遊んでいる指先を使う手作りの玩具も紹介しています。また、年長組は個人の制作の他に5クラス共通のテーマを決め、子どもたちのアイディアをもとに、クラスごとに3.4.5歳がそれぞれ発達の中でできることを行い、共同で作品を作りあげていきます。2021年度はホールステージ上に「海の生き物」

を表現しました。クラスで1つの物を作り上げ、それは「協力する気持ち」や「達成感」に繋がっています。

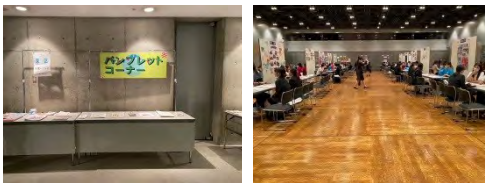
日頃の制作から「やってみたい」「面白そう」という気持ちを大切にしています。様々な技法や素材に触れ、感触を楽しみ、自分で色彩や構成を考え、出来上がった喜びを感じてもらえればと思います。その喜びを重ね、表現する楽しさや、また新たな発見や驚きに繋がるように制作に取り組んでいきたいと思っています。

2022年度「たからもの展」(11月10日～11月12日開催予定)をどうぞお楽しみに。(湯之前)



保育士の就職フェアとは、保育施設を運営する様々な法人や企業が一つの会場に集まってそれぞれブースを出展し、自分たちが運営する園の特色を養成校の学生さんや既卒で転職を考えてある方々に説明する場です。ブースでは園の様子を短くまとめた動画で流したり、園長や主任、保育士が参加者と直接話をし、働く環境や仕事のやりがいや苦労、保育への取り組み方などを伝えています。学生などにとっては園の情報や求人などの情報を集めたり

### 保育園と就職フェア



会場にはたくさんのブースが並んでいます。準備していたパンフレットも全てなくなり、学生さんも熱心に話を聞いていました。



就職活動のきっかけになっているようです。また、園見学やインターンシップを利用して職業体験に来られる学生も少しずつ増えていきます。保育士不足が嘆かれています。現在ですが、意欲のある若い人材を確保することも保育園にとって大切になってきています。子どもたちの成長を感じられること、行事などを通して協力したり、子どもたちと一緒に達成感を味わったりとたくさん保育士という仕事について就職フェアやインターンシップを通して少しでも伝えることができたらと思います。(楠本)

### 2022年度 職員構成

(8月1日現在 49名)

園長 三笠 良子

主任	荒津 佐知子
主任	中村 一星
給食主任	岩崎 真樹
事務主任	林 美由起
もも組	田畑 末奈美・渡邊 久美子 久保 香織
うめ1組	佐藤 由佳 山下 鈴華・林田 亜由美
うめ2組	小林 千春・古澤 真奈美 飛来 弘子
さくら1組	串尾 由依・駒井 佑花 中島 千賀子
さくら2組	下川 加南子・大鶴 彩夏 前車 智子
さくら3組	原口 直美・松田 雄紀 福山 ひとみ・袴田 れい子
年少フリー	佐野 美奈子・柴藤 彩 古賀 美夏・松本 奈緒美 小山 舞・柳 孝恵
フリー	薄 一美
なのはな組	平河 奈緒子・東 美早緒
たんぽぽ組	楠本 勝馬・藤田 海夕
すみれ組	友田 美桜・安部 菜白
れんげ組	湯之前 駿司・鎌田 眞理
つくし組	磯 志穂美・朴木 千佳子
給食員	岩崎 真樹(※)・渡辺 和 串崎 美津代・郷良 小百合 神田 英里香・斎藤 豊子 南 真紀子・西原 ひろ子
用務員	小嶋 満廣

### 2022年度 父母の会役員

会長 三根 一兎 (たんぽぽ)

会長補佐	藤本 倫代 (なのはな)	副島 綾香 (うめ2)
書記	井関 可南子 (れんげ)	石橋 董 (もも)
会計	地福 ゆり (れんげ)	風間 圭代 (すみれ)
監査	河野 小百合 (たんぽぽ)	高松 蒼 (もも)

子どもたちの笑顔や姿をしっかりと見つめながら、これからも生きていくうえで必要な「食」を通して、繋がりがりや関りを大切にして、自分自身も成長していきたく思います。

食を通して 子どもと繋がる 栄養士 渡辺 和

さわらび保育園の給食職員となって四半世紀以上が経ちました。北棟一階にある給食室から飛び出して、日々子どもたちと関わっています。ミルクから始まる「食」が、野菜や肉・魚など一人一人の成長に合わせ調理工程や形態をかえて提供する離乳食へと進みます。子どもたちがひとさじずつ口に入れて食べている姿を見ると元気をもらえます。一歳、二歳の子どもたちは食事が終わってからになったお皿を見せて「食べたよ！見て！」と満足そうな笑顔を見せてくれます。三・四・五歳児には食にもっと興味を持ってもらえるように、その日の献立の中からクイズを出したり、栄養の話をしたりしています。配膳の時や食べ終わった後の食器を回収する時に子どもたちに好きな食べ物を聞いたり、その時に楽しいお話を聞いたりして、



## TOPIX

### 40年間ありがとう！

そしてこれからも…。

正規職員として40年間勤務してきた飛来弘子先生。2022年4月からは準職員として継続して勤務しています。

飛来先生より  
「あっという間の40年間でした。引き続きさわらび保育園で子どもたちと楽しく過ごしていきたいです。これからもよろしくをお願いします。」

### スチームコンベクションが

新しくなりました

十数年使用していたスチームコンベクションが破損し、新しい物が導入されました。蒸す、焼く、炒める、炊くなどの調理をスムーズに行え、子どもたちへ提供ができています。



### 気持ちいい人工芝

年少クラスがよく遊んでいる中庭に、人工芝が入りました。ハイハイをしたり、ボール遊びをしたりと芝生の感触を味わいながら楽しんでいる子どもたちです。



(※)は再掲